

誰にも背を向けて子どもばかり生んでいた親猫が、身代わりのようにゲージに入っていました！

さっそくこの親猫をY病院へ連れて行ったところお腹に7匹の子が入っていたのがわかり、びっくり仰天でした。

岩崎さんと手を取り合って「大役を果たした」と喜びました。が、残った1匹は中猫になってきて、知らない間に子猫を生んでいました。いつのまにか親子ともども姿が見えなくなり、心配ではありますが、私の心境としてはホッとしています。

現在、餌を食べに来るのは親猫1匹だけとなりました。この猫に、地域猫として安心できる余生を送らせてあげたいというのが、私の今の心境です。



別所沼地域の猫を守る会副会長 土屋直子

猫との暮らし

★捨て猫の保護と、生かし続けるための努力

毎年春(4~6月)になると、公園に子猫が捨てられます。4年前の春には、まだ目のあいていない猫から親子の猫まで28匹の猫が捨てられました。

そのなかで運良く出会ってつかまえられる猫は保護し、里親を捜します。けれど、里親を捜すのは容易なことではありません。やっとの思いで里親希望者が見つかって、住居や環境、家族構成などによって飼っていただけないこともあります。

その猫に適正な環境が与えられるかを最初に見極めないと、不幸な結末に終わることになります。

捨て猫を保護するのは比較的むずかしいことではありません。しかし、その命を生かし続けるための必死の努力がそこから始まるのです。

里親をさがしている間に、家族に愛され癒しとなるようなペットになれるよう、しつけをしなければいけません。何より大切なのはトイレのしつけ。トイレのだらしない猫は、愛されるどころか厄介者扱いになってしまいます。

★猫を引き取ったかたへのお願い

……トイレ、遊び、しつけ

新しい家に行った場合、猫のトイレと飲み水は、たとえば洗面所や脱衣所のようにそこでいちばん狭いところ、掃除のしやすいところに置き、しばらくは目を離さずに猫の動きを観察する必要があります。

猫は本能的に砂ややわらかい土に用を足しますが、慣れない場所ではパニック状態になり、トイレを失敗することがあります。そのときは用便途中でもかまわないのでトイレボックスの中に運び入れ、そこがトイレの場所であることを覚えさせます。そそうした場所はしっかり掃除して、においが残らないようにしておきます。これは何度でも根気よく行います。

トイレにも食事にも慣れてきたら活動場所をどんどん広げ、猫の好奇心にこたえてあげます。猫は狭いところが大好きで、また、遊びの天才です。ボタン一つでも、米粒一つでさえも飽きることなく遊びます。観察すればするほど新しい魅力が発見できます。そうしているうちに可愛さを振りまきながら家の中じゅう走り回るようになり、たくさんいたずらをはじめようになります。でも決して叩かないでください。猫はとても耳がいいので、いたずらしたときは新聞紙などを丸めたもので床をバシッと叩けば、びっくりして“このいたずらはダメ”ということを感じます。

体罰を与えてはダメです。信頼できそうだと心を開きかけたところに痛い思いをさせられると、猫の心は傷つき萎縮してしまい、本来の魅力を失ってしまいます。

「猫かわいいがり」という言葉があります。猫がやることすべてを許してやる寛大さで、話しかけながら、一番気持ちよさそうにするところを優しくなでであげてあなたの声を覚えさせてください。前にも書いたように猫は耳がとてもよいので、人の声も足音さえも覚えてくれます。

